



〒064-8540 札幌市中央区宮の森2条16丁目10番1号  
 URL <https://spr-sacred-heart.ed.jp>

TEL 011-611-9231 / 011-676-7667 (職員室直通)  
 FAX 011-612-0980

10月はマリア様の月でした。生徒たちは修養会を経て自分の心と向き合い、考えを深めました。冬の足音が近づいてきています。11月は亡くなった方を思う月です。10日(木)の追悼の祈りで、心を合わせてお祈りしましょう。



## 11月の予定



		行事	弁当
1	火	放送朝礼 母の会パン販売(12:25~13:10) 母の会聖書サークル(10:30~Sr.田口)	要
2	水	中3ルーツの旅事前学習	要
3	木	文化の日	
4	金	高1高2進研模試	要
5	土	サタデープログラム⑤ 中2英語レッスン 父の会聖書サークル(16:00~Sr.田口)	
6	日	第2回英検二次A	
7	月		要
8	火		要
9	水	職員会議(15:40~)	要
10	木	追悼の祈り(朝礼~8:50) 1限5分短縮 高1高2小論模試(7限)	要
11	金		要
12	土	サタデープログラム⑥ 中2英語レッスン	
13	日	第2回英検二次B	
14	月		要
15	火		要
16	水	梅干し弁当⑥ 中3ルーツの旅事前学習	要
17	木	聖フィリピン・デュシェーンの祝日(朝礼~8:50) 1限5分短縮	要
18	金		要
19	土		
20	日		
21	月	後期中間考査①	※
22	火	後期中間考査②	※
23	水	勤労感謝の日	
24	木	後期中間考査③	※
25	金	後期中間考査④ 母の会幹事会	※
26	土	サタデープログラム⑦ 中2英語レッスン	
27	日		
28	月		要
29	火		要
30	水	課題研究ミーティング⑥	要

☆ ※の日は、必要な方は昼食をご用意ください。

☆ 行事予定は暫定のもので、大きな変更がある場合には、一斉メールや学校ホームページ等でお知らせいたします。

## 梅干し弁当募金

10月19日(水)に行われた梅干し弁当募金は、パシャワール会で役立てていただくために行いました。今回寄付されたお金は、アフガニスタンにおける慢性的な食糧不足、今なお進行する大干ばつに直面している方々を救済するために使われます。みなさまのご協力により、**総額 32,258 円**を送金することができました。

## マーテルの祝日・百合の行列

10月20日(木)は感ずべき御母マーテル・アドミラビリスの祝日、12月8日(木)は無原罪のマリアの祝日です。この二つをあわせて、10月3日(月)



の後期始業日に、マリア様の生き方にならい歩んでいけるよう一人ひとりがその思いを一輪の百合に託し、マリア様へ祈りを捧げました。

## 球技大会

9月30日(金)は北海きたえーのサブアリーナをお借りして球技大会を行いました。3年ぶりに中高合同で丸一日利用し、バレーボール、バスケットボール、卓球の3種目、それぞれ学年対抗で熱い戦いが繰り広げ



られました。総合優勝は、高2のみなさんでした。



## 各学年修養会・母の会修養会

10月11日(火)～14日(金)の期間に、今年も各学年と母の会の修養会がそれぞれ行われました。修養会とは、日々の生活をふり返り、自己を見つめて、新たな発見や意味を感謝のうちに見出す機会を得る目的で行われる聖心で大切にしている行事の一つです。各学年、様々な形で行われます。



中学2年生は、11日(火)12日(水)の2日間、「友達の輪を広げよう」をテーマに Sr.竹内からご指導いただきました。中学3年生は、12日(水)に「私のリスト、あなたのリスト」をテーマに Sr.田口、聖フランシスコ修道会の松本巖神父様、国連 UNHCR 協会の天沼耕平様からご指導いただきました。



高校1年生は、12日(水)～14日(金)に2泊3日で円山西町の産業訓練センターをお借りし、松本神父様のご指導の下 SADE を行いました。高校2年生は、修養会の一環として11日(火)～14日(金)に3泊4日で長崎へ見学旅行に行き、高校3年生は14日(金)にイエズス会の林尚志神父様をお迎えして、「私たちの創り出す新しい社会と世界」をテーマにご指導いただきました。また、母の会でも13日(木)に林神父様のご指導の下修養会を行いました。それぞれが新しい気づきを得て、気持ちを新たに歩みを進めていくことができますように。



## 今月のこころのこぼ

「神はあなたが大好きなのです。人生に何があろうとも、決してこれを疑ってはいけません。いかなる状況にあっても、あなたはどこまでも愛されているのです。」

(教皇フランシスコ)

11月になると、3年前、被爆地長崎と広島の地に立ち、「すべてのいのちをまもるため」と反核、反原発のメッセージを発信した教皇フランシスコの来日を思い出します。今、教皇は世界の教会共同体に、主イエスと共に歩み、それぞれの心をイエスの想いに重ねて生き、行動するようにと、ギリシャ語で「共に道を歩む」という語源を持つ「シノドス」を呼びかけておられます。

先日、修養会の指導をしてくださった林尚志神父様から教皇の呼び名の一つである Pontiff はラテン語の "Pontifex" 「橋を架ける人」という意味だと教えられました。なるほど、教皇のお言葉には、



分断されたこちら側とあちら側をつなぐ力がこもっています。上の言葉は、若い人々に向けて書かれた「キリストは生きている」という使徒的勧告と呼ばれるメッセージの一節ですが、これこそ、神様が一人ひとりに告げたいことなのだ実感します。

11月18日に祝日を祝う聖フィリピン・デュシェーンも、母国フランスから見ると、あちら側とされた開拓地アメリカにわたり、教育を通して未来に橋を架けました。

厳しい生活の中で、人々のために自分を使い尽くす原動力になったのは、このことを伝えたいという熱意だったと思います。このことを伝えるための教育に励むことができますようにと、一人ひとりの生徒のために祈りながら、祝日を迎えます。〔チャプレン Sr.田口保子〕

